

Title	Involvement of interleukin-17A-induced expression of heat shock protein 47 in intestinal fibrosis in Crohn's disease(Abstract_要旨)
Author(s)	Honzawa, Yusuke
Citation	Kyoto University (京都大学)
Issue Date	2014-07-23
URL	https://doi.org/10.14989/doctor.k18514
Right	
Type	Thesis or Dissertation
Textversion	ETD

京都大学	博士（医学）	氏名	本澤有介
論文題目	Involvement of interleukin-17A-induced expression of heat shock protein 47 in intestinal fibrosis in Crohn's disease (インターロイキン17Aによって誘導される熱ショック蛋白質47はクローン病腸管線維化に関与する)		
(論文内容の要旨) クローン病 (Crohn's disease, 以下 CD) は慢性腸管炎症をきたす原因不明の疾患である。CDにおける慢性炎症は腸管線維化による腸管狭窄を引き起こし、多くの場合外科的治療が必要となる。しかしながら、CDにおける腸管線維化の発症メカニズムについては不明な点が多い。線維化にはI型コラーゲンを主とした細胞外マトリックスが関与していることが明らかとなっている。加えて、このI型コラーゲンの過剰蓄積が腸管線維化に関与し、狭窄の原因となる。 熱ショック蛋白質47 (Heat shock protein 47, 以下 HSP47) は小胞体に局在するコラーゲン特異的な分子シャペロンである。このストレス蛋白質は正常なコラーゲン産生に必須であるが、多くの線維化疾患において強く誘導される。しかしながら、クローン病腸管線維化におけるHSP47の役割についての検討はなされていない。 炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease, 以下 IBD) 患者の手術検体より腸管組織を採取し、組織中のI型コラーゲンを測定したところCD患者の炎症部位で有意にI型コラーゲン量が増加していた。さらに、同検体よりmRNAを抽出し、I型コラーゲン、HSP47、各種サイトカインの発現を検討したところCD炎症部位でI型コラーゲン、HSP47、インターロイキン17A (Interleukin-17A, 以下 IL-17A) の発現上昇を認めた。同様の検体を用いた免疫染色においてはコラーゲン産生細胞である腸管筋線維芽細胞に一致してHSP47陽性細胞がCD炎症部位で増加し、また腸管T細胞に一致してIL-17A陽性細胞の増加が確認された。これらの結果より、CD炎症部位ではI型コラーゲンがHSP47と共に増加しており、炎症性サイトカインであるIL-17Aが増加していることが明らかとなった。 次にヒト腸管筋線維芽細胞株であるCCD-18Co細胞を用いてIL-17A刺激によるHSP47およびI型コラーゲンの発現を検討した。IL-17A刺激によりHSP47、I型コラーゲンの発現上昇を認めた。さらにHSP47shRNAによりHSP47をノックダウンしたところIL-17A刺激によるI型コラーゲンの産生が抑えられた。これらの結果より、I型コラーゲンの産生増加にはIL-17A刺激により誘導されたHSP47が関与していることが考えられた。また、シグナル伝達阻害剤を用いたIL-17Aのシグナル解析ではc-Jun N-terminal kinase (JNK)のシグナル阻害にてHSP47およびI型コラーゲンの産生が抑えられた。 最後にIBD患者検体より単離した腸管筋線維芽細胞を用いてIL-17A刺激を行ったところ、細胞株での結果と同様にHSP47、I型コラーゲンの発現上昇を認めた。また、IBD腸管炎症部位より単離した腸管筋線維芽細胞では非炎症部位および正常腸管より単離した腸管筋線維芽細胞に比較して有意にIL-17A刺激によるHSP47およびI型コラーゲンの産生増強を認めた。 以上よりインターロイキン17Aによって誘導される熱ショック蛋白質47はクローン病腸管線維化に関与することが示唆された。			

(論文審査の結果の要旨)

クローン病 (CD) 腸管線維化のメカニズムについては不明な点が多いが、原因の一つとしてI型コラーゲンの過剰蓄積が関与しているとされている。申請者らは小胞体に局在するコラーゲン特異的な分子シャペロンである熱ショック蛋白質47 (HSP47) に着目し、CD腸管線維化におけるHSP47の役割を検討した。

CD腸管炎症部位ではI型コラーゲン、HSP47、インターロイキン17A (IL-17A) のmRNA発現上昇を認めた。さらに同部位ではコラーゲン産生細胞である腸管筋線維芽細胞に一致してHSP47陽性細胞が、腸管T細胞に一致してIL-17A陽性細胞の増加が確認された。

ヒト腸管筋線維芽細胞株および患者検体より単離した腸管筋線維芽細胞へのIL-17A刺激後にHSP47、I型コラーゲンの蛋白発現が上昇した。HSP47shRNAによるHSP47のノックダウンはIL-17A刺激によるI型コラーゲンの産生を抑制した。以上よりIL-17Aにより誘導されるHSP47はCD腸管線維化に関与することが示唆された。

以上の研究は、CD腸管線維化におけるIL-17AとHSP47の役割の解明に貢献し、腸管線維化研究の進展に寄与するところが多い。

したがって、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、平成26年6月26日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日以降